

8

「だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができますか?」

「私は神の愛を信じているか、少なくとも信じたいと、当然ながら願っています。」

「けれども、病気や誘惑などの困難に直面するとき、私たちの信仰はあるべき勇気を持たなかったりします。」

私たちはつい、

『神は本当に私を愛しておられるのだろうか』という

疑いの気持ちにとらわれがちです。

神の愛は、

たとえ真っ暗闇にあったとしても、

疑わないようにと私たちを招いています。

御父の愛に信頼して、ためらうことなく自分を委ねましょう。

私たちは、孤独や見捨てられたと思うような試練のときを、しっかりと受け止めることで、自分の中に感じる闇や空しさを克服できるのです。



だから思い切って、隣人を愛することから始めて、神を愛するようにしたらどうでしょうか?



やってみましょう! そうすれば、イエスとともに、特別な力と喜びを体験できるはずです。

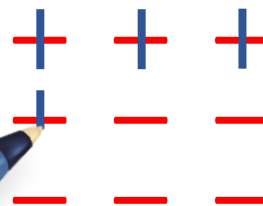
一致をめざす少年少女(T4U) 国際事務局による編集済



そのように生きる時、神の愛を信じ、自分を委ねる人にはすべてが変わることが分かるでしょう。

つまり、ネガティブなことはポジティブに変えられ、死はいのちの泉となり、闇からは美しい光が放たれることを、手で触れて、実感することになるでしょう。

難しい状況を前にして、私たちは愛し続け、ネガティブをポジティブに変えていくのです。



深めてみよう



神は裁判官ではなく、私たちを守ってくださるお方です。だから、どんなものも神の愛から私たちを引き離すことはできないし、ご自分の愛する御子イエスとの出会いを通して、神は常に私たちを愛してくださっているのです。

神の愛にとってはどんな困難も、それが内面的なものであれ、外面的なものであれ、また大小を問わず、乗り越えられない障害とはなりません。

むしろ困難の中でこそ、神を信じて自分を神に委ねる者は「輝かしい勝利を収める」とパウロは語っています。

こんにち

今日、人は困難、障害に対し、スーパーヒーローやスーパーマンのように圧倒的な力によって解決する方法をとろうとしますが、福音のメッセージが示しているのは、力で押さえこんで勝利を得る方法ではなく、相手の考えに耳を傾け、対話を築きながら解決していく柔和な姿勢なのです。



www.focolare.org/japan